

報告3

京都中部総合医療センター

副看護部長 増谷照代

【第1日目】瀬戸内市立瀬戸内市民病院概要
説明・質疑応答・院内見学

■所感■

病院到着後、視察者代表者の挨拶の後、瀬戸内市立病院事務局長の馬場洋一様進行のもと、竹内院長より歓迎のご挨拶をいただき、病院の概要説明、事前質問の回答後、病院内の見学をさせていただいた。

1・建築に係る資金調達 新病院建築の経緯とその建築費用、財源について

(新病院棟建築の経緯) 平成19年度に新病院建設の基本方針を策定されたが、費用面の課題で凍結。平成23年度に基本計画を見直し、新病院基本方針を作成。実施設計により工事費を積算されたが予算額が9億超過したためCM(コンストラクションマネジメント)を導入し、設計を見直しされた。県内の大規模商業施設、

病医院建築ラッシュの影響を受け、入札不調となる。積算を見直しされ再入札を実施し、建築工事に着手された。社会情勢など外部環境の影響より、基本計画策定から新病院開設までに5年間を費やされた。

(新病院建築事業の総事業費(内訳)について) 現状では当初の投資計画予算内で収まっている。現有機器の移設、パブリックスペースのみ什器購入、医療コンサルの導入等により経費削減された。

(総事業費の財源内訳について) 補助金、合併特例債の活用により、有利な資金計画を実現。



病院の案内板

交付税措置と病院の返済に
より実質的な市の負担は発生しない。
但し基準

内繰入は除く。年間約1億円の返済のため一層の経営改善が必要である。ポインントは新病院建設には、ハード面の計画以上に経営計画が重要である。

2・診療体制の充実に向けた看護師確保について

加藤由美看護局長より説明いただいた。看護師確保のために県内の看護学校を訪問。県内の高校、大学及び専門学校へ出向き、募集要項や求人票、病院パンフレットなどを持参・説明し、卒業生の動向を確認しながら新卒を含め、若い人材の確保に努められている。また就職フェア、学校主催の就職ガイダンスなどに出展。ナースセンターからの紹介は積極的に対応し、病院見学は、日程を決めず随時対応、現場の雰囲気を見学してもらい生の声を聞けるという利点があると述べられていた。
職員のロコミや市民病院として町ならではの良さ、地域に密着した医療の良さをアピールし、医療に関心がもてる環境

作りにより4年間で3名の人材を確保された。また、なぜやめたのかその背景を把握し、やめない体制作りの必要性について述べられた。

3・平成18年度より地方公営企業法全部適用取入れによる効果などについて

瀬戸内市民病院新改革プランより説明。平成18年度に公営企業一部適用から全部適用に変更し、その後平成23年度から3カ月で独立行政法人化（独法化）に向けた検討を院内で着手。その際には新病院の建築と同時に安定した経営基盤がはかれるかどうか未知数であったため、独法化を延期する判断をされた。新改革プランどおりの収支計画を実現し、



平成33年度以降の適切な時期に独法化できるよう計画されている。

住民理解については、病院広報誌『さざなみ』Ⅱ写真Ⅱを2カ月に1度発行。

院内の『さんさんホール』を利用して健康に関連した講座の定期開催により予防啓発をされている。また10月下旬、病院機能評価受審。「出前講座」を行い市民や多施設に対してのPR並びに信頼と理解を得るための活動をされている。

4・瀬戸内市民病院修学資金制度の概要とその貸与者及び採用数の実績について報告

竹内院長より、医師の人材確保においては就職希望者が多い状況との報告があった。魅力ある人材を採用することが、病院経営に大きく影響すると説明された。今回、「医療はサービス業である」という竹内院長の言葉が印象的であった。市民の皆様にも愛される病院作りのためには、接遇の重要性和職員が地域住民に信頼されるためにどこまで徹するこ

とができるか、職員の地域を思う心を育てることが病院の魅力につながることに気づかされた。

5・岡山県国保診療施設看護師確保事業について

岡山県国民健康保険団体連合会の河井大悟氏より国保診療施設の認知度向上のための「看護師ガイドブックの作成及び配布」について説明があった。作成の意図は、岡山県国保診療施設運営協議会が主催で関わることで、国保診療施設看護師募集が大規模組織として看護職員養成機関へ認知され、宣伝効果の増加を図ることである。作成後は、県内看護職養成機関に配布予定。費用は新たな費用の徴収はなく20万以内で作成とのこと。国保診療施設についてわかりやすく作成されておりぜひ京都府でも検討いただきたいと感じた。

6・院内視察について

玄関には院内の概要がわかりやすく掲示されていた。玄関からすぐ入った所



には地域医療連携室があり保健師を含む4名の体制でトータルサポートセンターⅡ写真Ⅱが設置されており医

療・介護・福祉に関する総合的な相談が受けられる体制が取られていた。不在であってもすぐ対応ができるようコールが設置。健康管理センターと多目的ホールであるささんホールは隣接されており、太陽（SUN）のイメージである晴れと情熱、お互いが「さん」「さん」と呼び合うことで誰もがお互いを尊重しあう気持ちをテーマにしたホールで人間ドックや健診機能の充実が図れていた。トイレは明るい雰囲気ですべて洋式。検体がすぐ出せるよう小窓が設置さ

れており、検査室とすべてつながっておりコールが設置されていた。外来廊下の広さはベットが2台すれちがうことができるほどであった。内視鏡室は広く、ゆったりとした待合室がありTVが設置されていた。救急・時間外受付から救急室・検査室のつながりは直線になっておりわかりやすく、移動距離は短い。廊下には移動用ソファベッドが設置されていた。MRI室の前室は広く、ベット1台が収容できるスペースがあった。病院案内の掲示物は色分けされておりエリアがわかりやすかった。特別個室は多様なニーズに応えられるよう、広く設置



診察待合室

されており穏やかな空間が作られていた。病棟は病棟ごとに色別されておりパステルカラーと木彫の色あいの

コントラストであり安らぎが感じられた。回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病床の真ん中に設置されているリハビリテーション室はガラス張りであり廊下から一部見えるようになっていた。オープンカウンターで対応できる部分のテーブルの高さは低めに設置され、車椅子の方が対応しやすく工夫されていた。またカウンター下は車椅子やストレッチャーが保管されており機能的に作られていた。

瀬戸内市民病院が目指されている市民に安らぎと幸せを届ける病院という理念が感じられる建物でした。また対応していただきました職員の皆様の温かい対応に感謝いたします。お世話になりました瀬戸内市立病院様、連合会の皆様に厚くお礼申し上げます。

【第2日目】岡山県女子バレーボールチームの岡山シーガルズコーチ・中田聖子氏の講演「選手の能力を引き出すコーチング」
中田氏より岡山シーガルズの発足について

説明いただいた。Vリーグ機構に属するチームの中でも数少ない市民クラブチームとしてバレーボール教室、地域イベント、講演会等に積極的に参加し、地域密着型の活動をされている。地域におけるバレーボールの普及・発展・強化活動のため、合宿受入・地域合宿、シーガルズジュニア育成、海外チームの強化合宿受入などを行っている。監督は河本昭義氏、2009年にはクラブチームとなって初めて全日本代表チームに選手を輩出、2013プレミアア女子（Vリーグ）準優勝等の実績がある。

今回、中田氏より河本監督の指導方法から何が選手に必要なのか、どのように育てていけばいいのか講演いただいた。

まずその人の特性を活かすことである。河本監督は何のためにその動きをするのか、「あれ」と感じたら練習中であつても止め、瞬時の判断に対する質問を行い考えさせる。質問されることで聞く力が身につき、自分で考え返答することで「考えるバレー」を行い、成績が残せる選手が増えていると述べられた。

またつらくなった時、自分のことばかりにならないで、周りで頑張っている人のことが考えられることが必要。周りが頑張ってくれているからできるのだと感謝の気持ちを大切に、仲間のため・チームが上手くなるため、自分が成長するためお互いが言いあえる関係作りが大切であると述べられた。また寮生活は普段の生活の中で、仲間への思いを自然に気遣いできる手段となる。「心のバレー」ができるよう心を鍛えることがチーム力を高められることにつながる。そして自分に何ができるのか、何をしないといけないのか考えさせることが重要である。リーダーはなんでも



研修参加者ら

やりすぎない、理想を求めすぎないことが大切であり、選手の性格・気持ちを理解しながらその人に合った指導を行うことが重要である。監

督の指導を信じて信念を持って取り組むことにより信頼関係が築かれ、実証された時大きな力となっていることを語られた。自信を無くした時はチャンスを作る。我慢し、考えさせる。やらせてみて手助けしないことが大切。考えると声が出なくなるので、明るく元気にはっきりと声をださせることが必要。はっきりと声をだすと表情なども伝わりやすくなるとのこと。自らが考え、答えを出すことが力を引き出す要因となることに気づくことができた。

質疑応答では、中田氏より「病院では何が一番大切な「スポーツを見るときに期待することは何か。どんな時に心が動くのか」との質問があった。ボールを落とさないで拾ってつなぐ瞬間と、選手達が声をかけあい、励まし合いながらチームが一体となる姿に応援がしたくなり、また観衆と一体となり応援する姿にTVを見ている私達も感動する。病院の中でも共通することであり一人一人の行動が病院の評価となり、職員と地域住民が支え合えることが病院の魅力につながると感じた。

「キャプテンに求められる役割はどのようなことか」という質問に対しては、声かけの重要性及び視野を広げ、気配りができるとだと話された。「テンションを上げるにはどうしたらよいか」については、何が原因で負けたのかみんなで反省し分析する。自分を見つめなおし、弱さを知る。自分を知ることが大切。我を忘れそうな時、チームの一員であることを自覚する。悪いイメージではなく良いイメージを描くこととの回答をいただいた。

講演や質疑応答を通して、人を育てる過程において個人の特性を活かすために個人に考えさせ、能力を引き出していくことが必要であることを学ばせていただきました。またチーム力を高めるためにはお互い思う心を育てることが重要であり、組織の中の一員として自己がどのように貢献していくのか考えられるよう導いていくことが指導者には求められると思われました。岡山シーガルズの皆様の練習風景、河本監督の実際の指導を拝見させていただき、監督の魅力を感じることができました。

■ ■ ■
今回の視察研修に参加させていただき、他施設の方々と多くの情報交換もでき、貴重な時間を過ごすことができましたことに感謝申し上げます。また2日間お世話になりましたバスガイドの北川さんにもおもてなしの心を学ばせていただきました。ありがとうございました。このような機会をいただき関係各位に心より感謝申し上げます。